

猪名川合流点から源流まで

千里川をさかのぼる



シニア自然大学校 森と海の自然科学

秋山 豊

森と海の自然科説明と千里川の歴史

- ① 森と海の自然科の説明
- ② 千里川の今
- ③ 千里川の動植物
- ④ 千里川治水と直線化工事
- ⑤ 千里川を考える会の思い

千里川という川

国土数値情報河川データセット
赤線部分が千里川

唐子川
源流域

白島東交差点の東
側で府道9号線(池
田箕面線)と交差
ここから上流が

唐子川
下流が千里川



猪名川との合流点

千里川ぶらりぶらりと源流を訪ねる

パート① 2024年9月26日 中央橋まで



千里川ぶらりぶらりと源流を訪ねる

パート② 2024年11月28日 源流まで



箕面萱野
せせらぎ公園

千里川の昔と今

- 箕面の山からの小さな流れが集まって千里川となり北の丘陵地から南の台地へ緩やかに流れ下って猪名川に注ぐ、広大な千里丘陵を流れていることからせんり川と呼ばれるようになった。
- 全長10Kmのなだらかな起伏の田畑を縫って流れ、上流部の北緑丘団地付近では古墳時代から人が住み周辺には窯跡が残る。
- 中流部の桜井谷や野畑では稲作の他に夏菊や花卉類の栽培が盛んで大阪や神戸に出荷していた。
- 春日橋付近では昭和初期から戦後にかけて摂津乗馬クラブがあり戦時中には軍事教練の場となっていた。
- 今では猪名川流入口近くの原田大橋横に伊丹空港に着陸する飛行機を頭上間近に見学できる豊中つばさ公園がリニューアルされ人気スポットとして周知されています。

猪名川への流入口



千里川土手豊中つばさ公園「ma-zika」



千里川の土手は
飛行機マニアの
聖地と呼ばれ
2026年3月
に開園する

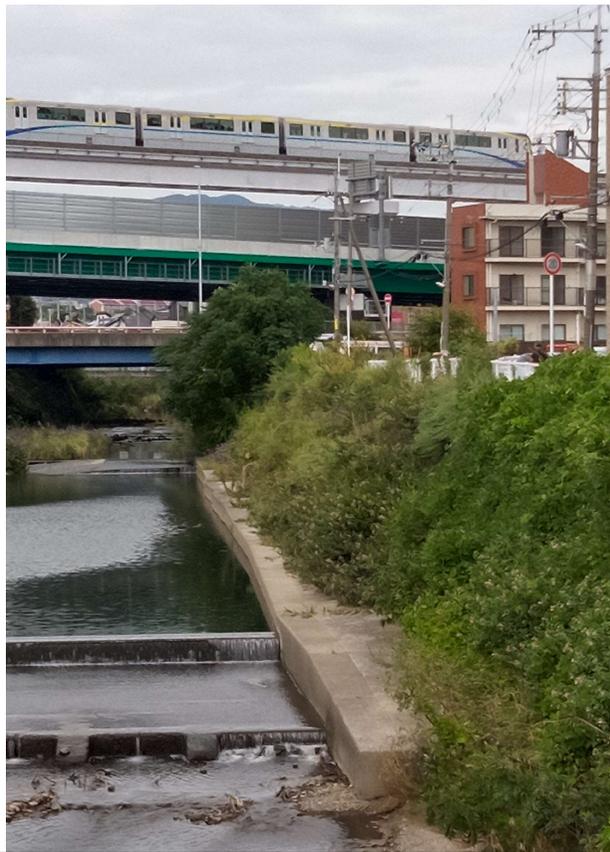


完成図

明治橋



新大正橋



昭和橋



この3橋は地名ではなく各時代に作られ架け替え後もその橋名を継続している。
新大正橋は大阪モノレール・中国自動車道・中央環状道路の3本が並び千里川最大の交通要所。

桜町函道



新大正橋を渡る唯一の
左岸側地下道

斜め堰堤？



高橋下流の不思議な堰堤

護床ブロック



是山橋から中央橋に続く

貯水機能を有した千里川沿い公園



大雨による増水時一時的に千里川の水を公園に入れ貯留機能を併用する公園
二か所あり左が久保公園（箕輪橋）右が野畑南公園（神鞍橋）

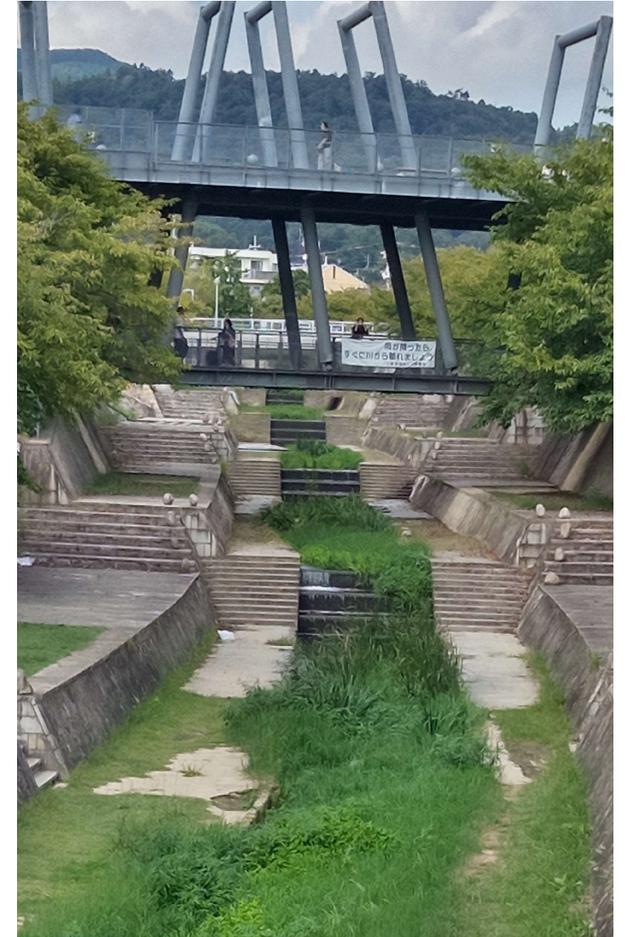
千里川三か所の親水公園（川床で水遊び場所）



箕輪



野畑



萱野せせらぎ

豊中市から箕面市に入り風景一新の番堂橋へ



不二橋上流左右護岸の
高さ違い極端場所



番堂橋右岸付近から萱野の田んぼ風景が広がり
風景が一変する

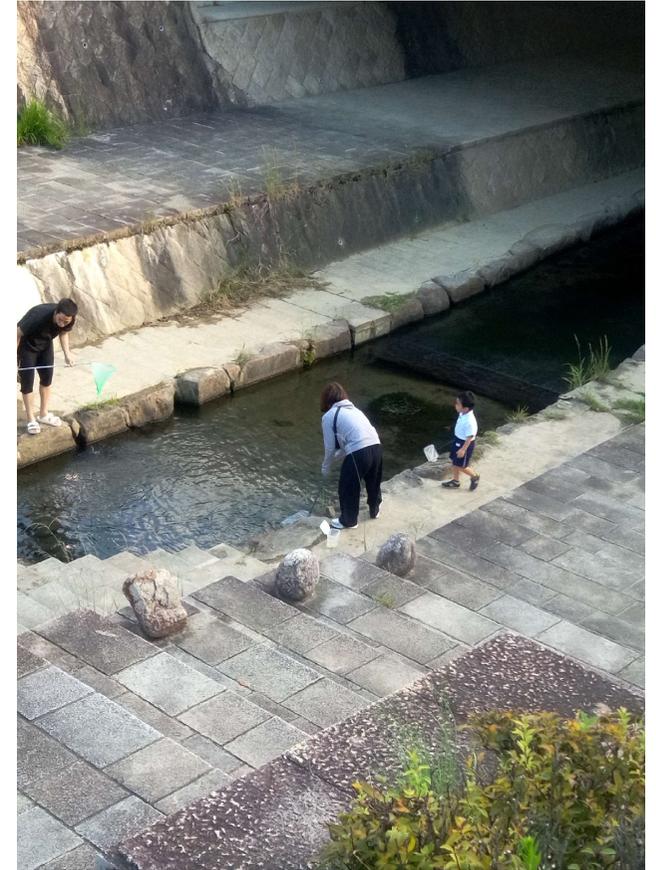
北大阪急行（大阪地下鉄）沿線と千里川



橋名不明橋から
北大阪急行地下鉄



萱野2丁目交差点横改
修工事後の千里川



萱野中央橋北橋下で
魚捕りに熱中する親子

千里川と唐子川の境界白島東3丁目付近



千里川最初の白島東橋



千里川の始まり



千里川と唐子川の境界

千里川8606040076
唐子川8606040000

千里川から唐子川源流に到達



2024年11月28日源流に到達



源流付近みのおG-19標識

千里川豊中～箕面市に架かる58橋名

千里川橋梁	原田大橋	梨高橋	神明橋	新勝部橋	下走井橋
走井橋	宮川原橋	走井大橋	典正橋	箕輪橋	箕輪小橋
下河原橋 <small>歩道橋</small>	下河原橋	せんりかわ橋	月見橋	千里川橋	千本人道橋
春日橋	千里川橋 <small>人道橋</small>	21 昭和橋	新大正橋	明治橋	高橋
なかどう橋	どんど橋	神鞍橋	是山橋	中央橋	堤山橋
こくせ橋	野畑橋	水田橋	上水田橋	清谷橋	36 落合橋
37 新西脇橋	南川橋	千里橋	神津橋	不二橋	香道橋
辰巳橋	番堂橋	藤原橋	橋名？	萱野中央橋	萱野中央南橋
萱野中央中橋	萱野中央北橋	橋名？人道橋	唐子4号橋	唐子3号橋	白島1号橋
白島2号橋	白石橋	唐子2号橋	白島東 <small>交差点橋</small>		

千里川で目にした動物



原田大橋 アカトンボ大群



中流千里川橋 ヌートリア

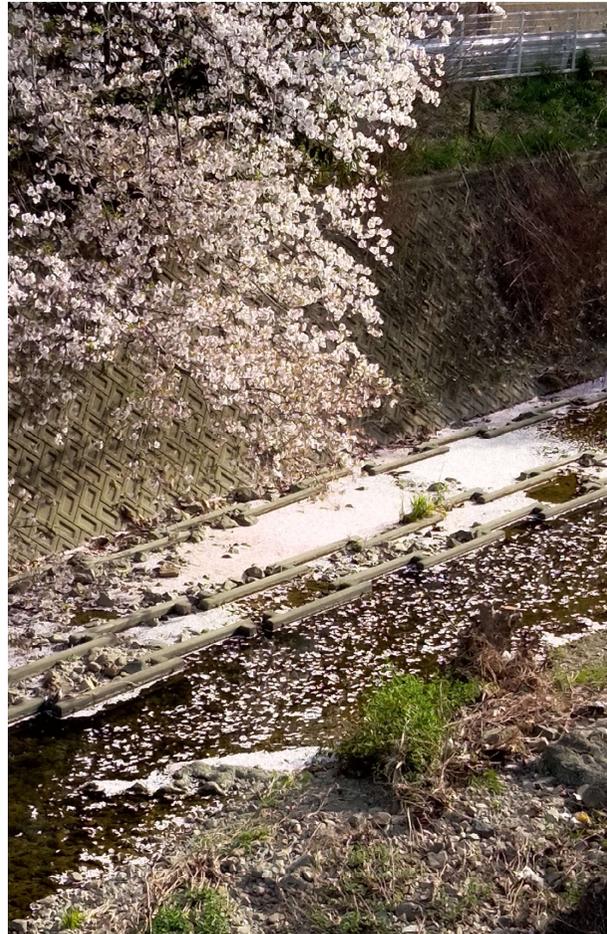


中流春日橋 カメ

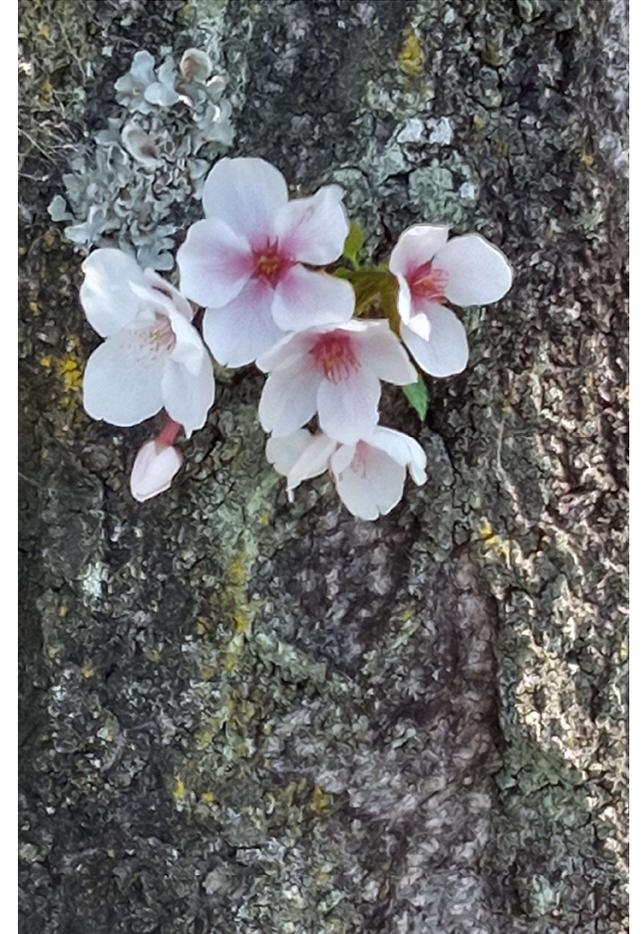
千里川春の満開さくら



中央橋 満開の桜



こくせ橋 散り始めた桜花筏



野畑南公園入口の幹咲き桜

春日町ヒメボタル特別緑地保全地区

- ・千里川野畑親水公園対岸にあります

「千里川を考える会」が生息地保全の要望書を提出。2016年2月29日に豊中市が春日町2丁目・3丁目の草地など約1ヘクタールを都市緑地法に基づく「特別緑地保全地区」に指定。

- ・「ヒメボタル保護者会」が保全地区の竹藪の間伐と除草を毎年8回行い、ヒメボタルの発光時期に合わせて5月に学習会と観察会を実施している。

- ・ヒメボタルはゲンジボタルより小型で6mm～9mmの大きさに土の上や落ち葉に産卵し生涯を陸上で生活する。成虫になって一週間程で短い命を終える。

豊中春日町ヒメボタルの観察



観察日 2025年5月25日 (日)
午後7時40分～8時20分

1967年7月千里川豪雨による被害箇所図

橋梁の破損箇所 2ヶ所
橋梁の流失箇所 6ヶ所
堤防の破損や決壊地点 6地点

-  堤防の破壊または決壊地点
-  橋梁の破損地点
-  橋梁の流失地点
-  床上浸水地域



豊中市全市図

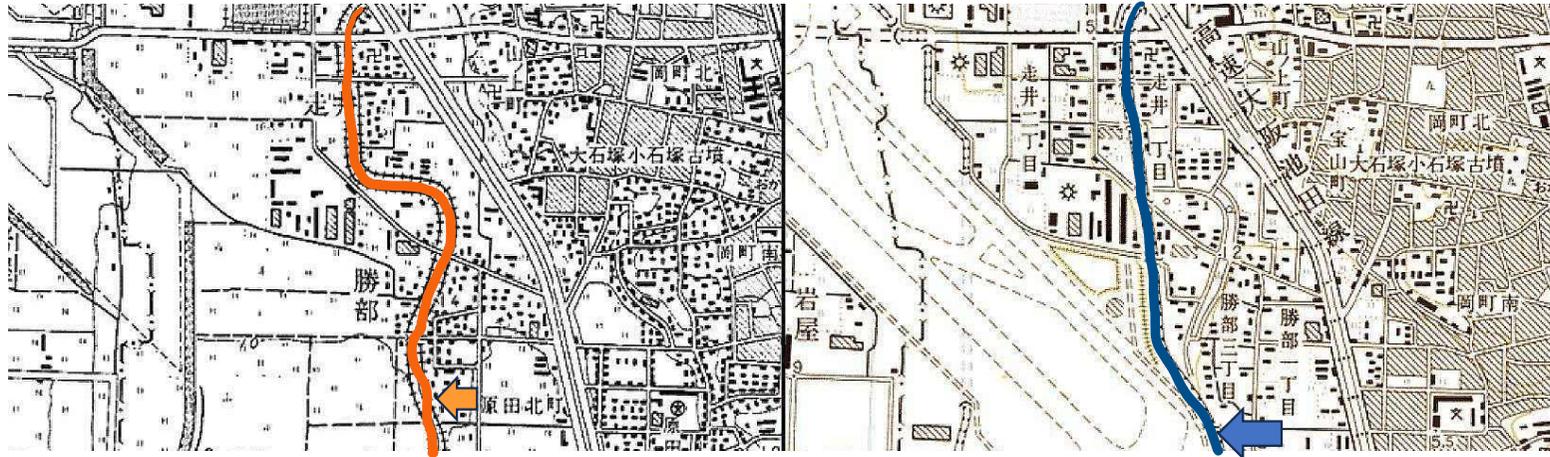


千里川の流路直線化工事 野畑地区と勝部地区

1949年版 豊中市全図

千里川勝部地区下流部の昔と今

1940年



1979年

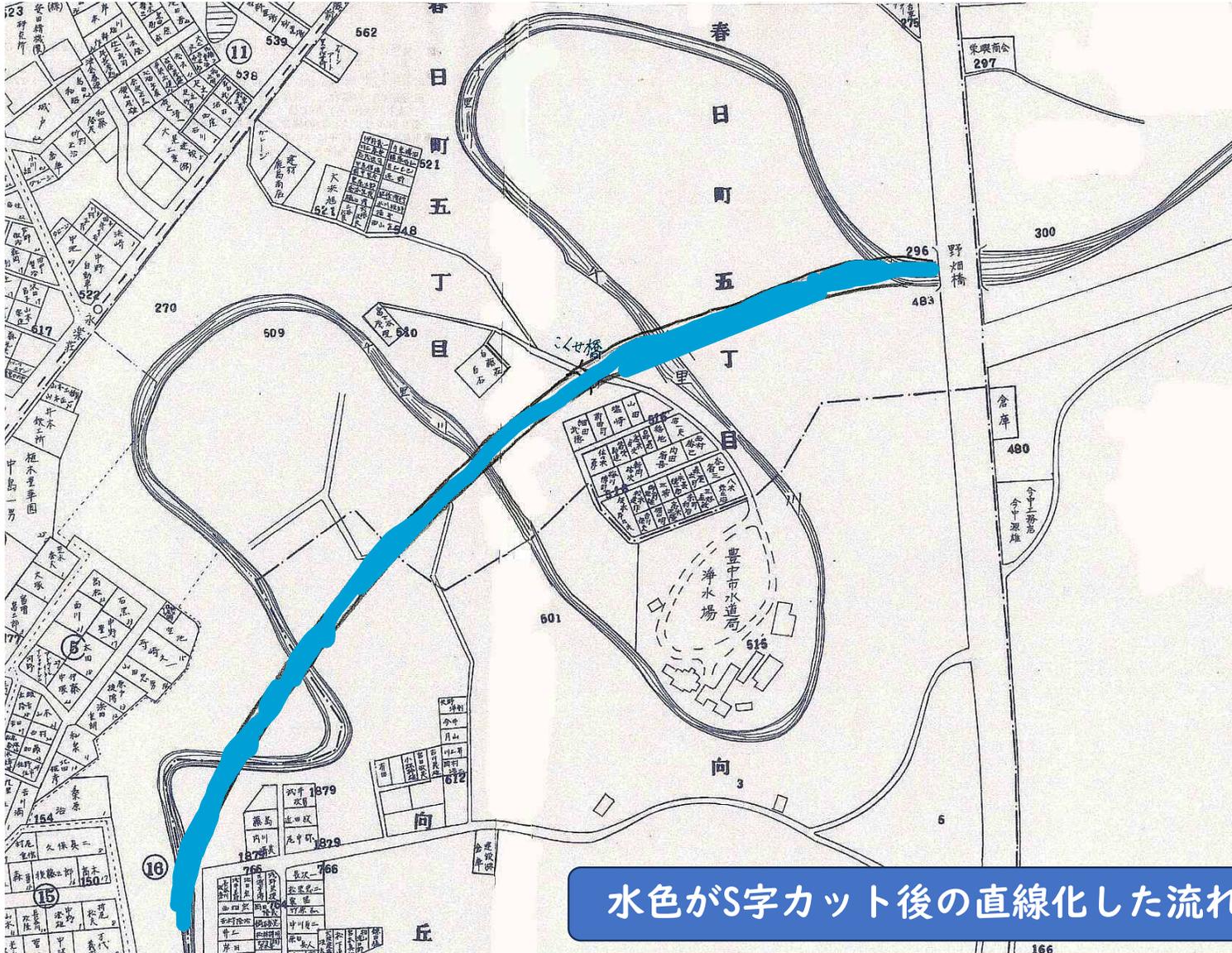
1970年に直線化工事が終了する

昭和39年頃
(1964年)
千里川の土手
後方は消失した
南高橋



現在の梨高橋

1967年豪雨被害前 豊中市春日町詳細地図



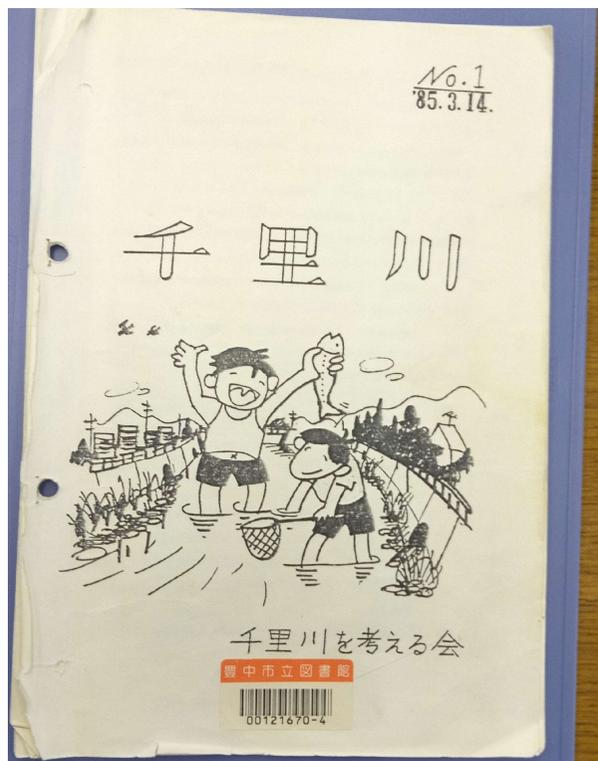


野畑地区流路変更
工事中（1970年頃）

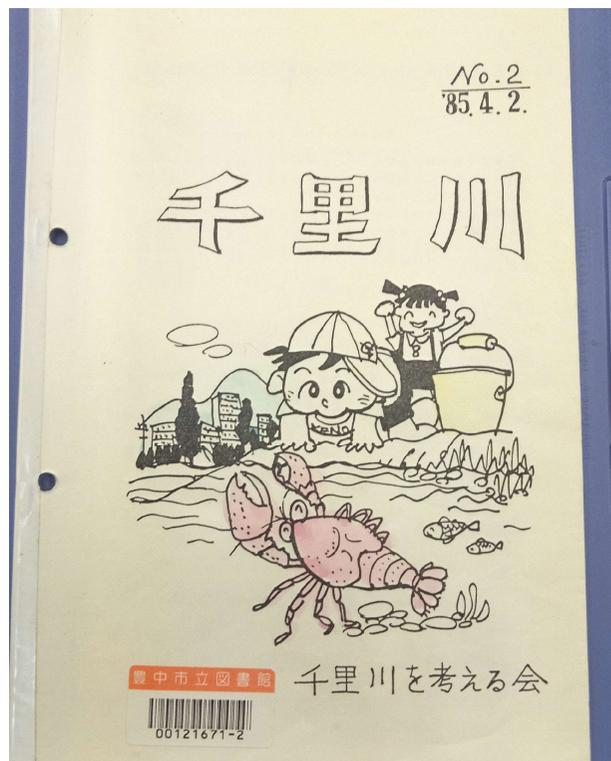


野畑地区S字カット後
直線化（1976年頃）

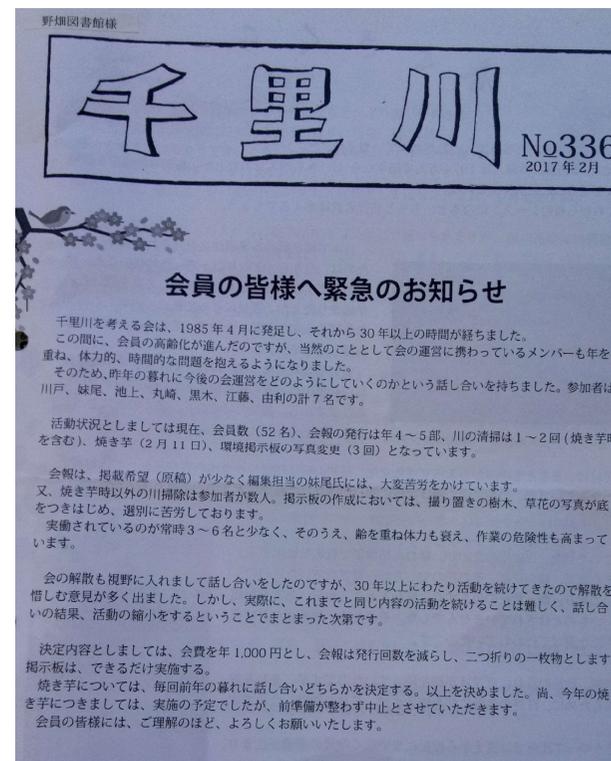
季刊誌【千里川】 千里川を考える会



第1号創刊号
1985年(昭和60年)3月



第2号翌月号
1985年4月



第336号最終号
2017年(平成29年)2月
31年間継続

千里川を考える会の初期活動地域



初期の活動地域図
(市境の落合橋～野畑団地)



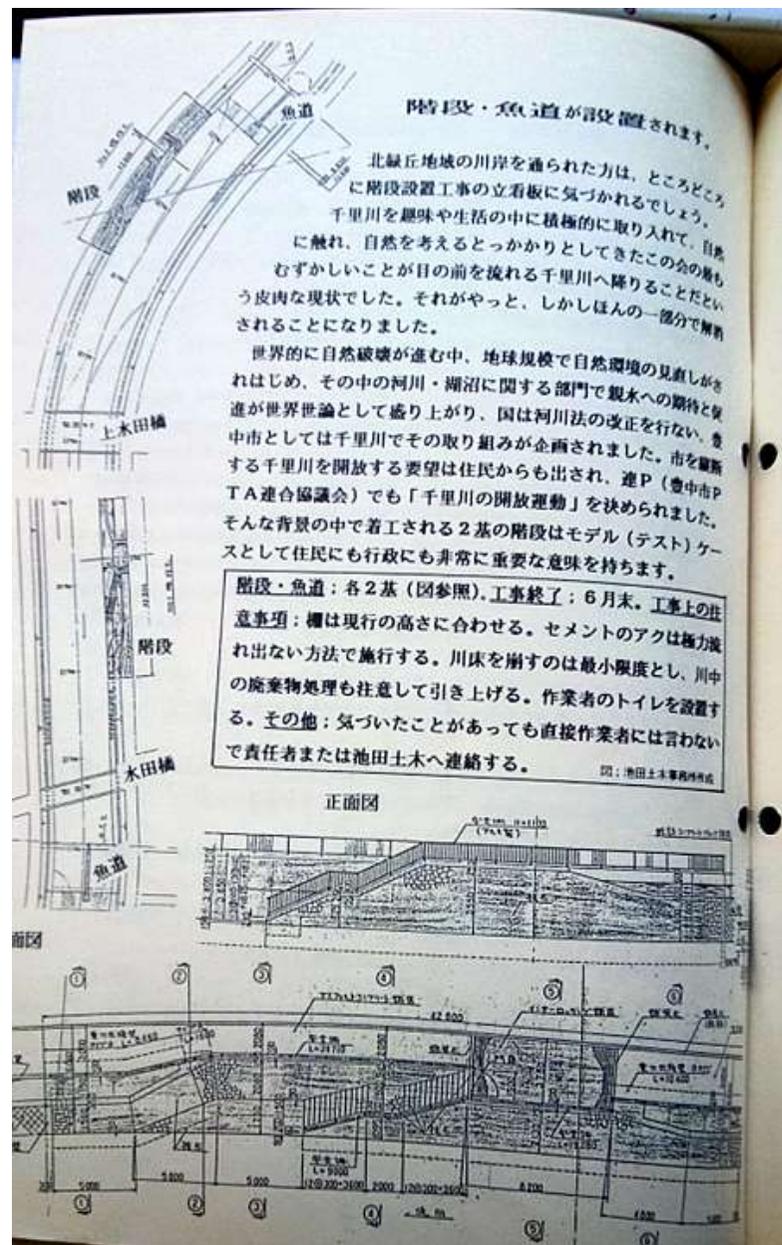
上水田橋を挟む北緑丘団地群



千里川を考える会が要請完成した水田橋上流の魚道



水田橋下流での清掃活動と
後方の北緑丘団地群



千里川を考える会の要望が認められ
川床への階段と魚道設置の報告

「千里川を考える会」31年間の軌跡

・季刊誌【千里川】の発行と地域住民の環境保全の思い

◇1985年当時下水やごみで汚れた千里川を何とか綺麗にしましょうと産経リビングの呼びかけに川沿いの住民の方々が「自分たちで汚い川を生き返らせたい」「子供達が遊べる川にしたい」「千里川をもっと知りたい」と会を立ち上げ、川との係わりを深めつつ、故郷の川への親しみの愛情を千里川に重ね合わせて同年3月より活動を始めます。

◇季刊誌を通じて千里川の清掃・雑草の草刈り・枯草焼き・生物調査・野草試食会を実施し親睦を深め活動域を広げていく。

◇会員の中の有識者の寄稿により千里川の野鳥・魚たち・草花・地学・アメリカザリガニの科学的知見を学習していった。

1987年11月第33号で
季刊誌【千里川】に掲載された
千里川の草花 | 3/36回目

数珠玉 (ジュズダマ)

挿絵・数珠玉の俳句紹介
川戸保次 監修

千里川の草花
13

川戸保次

数珠玉 (ジュズダマ)

いね科 別名 ズズダマ・カワジュズ・ハチコク・ツストウムギ・ジュズコ・タマズシ

熱帯アジア原産。各地の川岸などに自生する多年草。

千里川には普通に見られる大きい草木である。

冬には地上部は枯れるが、春になると残っていた根から、新しい茎が伸びる。

夏には葉のわきから、花穂を出して垂れる。雌花・雄花の別がある。花期は7~9月
果実は変わっていて、子房が包葉に包まれたまま実となり、包葉は著しく硬くなっ
て、白色・淡青色・淡褐色のいろいろな色の玉となる。陶器のような光沢のあるこの
果実を古くから、形や色を揃えて採取し、穴に針で糸を通し、数珠を作っていた。

古い時代に渡来、栽培されたと思われる。「本草綱目啓蒙」
によると、享保年間(1716-1735)に渡来したことになる
が、「和名類聚抄」(930)には“豆之太萬(ツシタマ)”として
出ている。古代に“ツシタマ”と呼んだのが、現在のジュ
ズダマであると思われる。

ジュズダマに似たものにハトムギがある。ハトムギは嘔吐と、歯に
粘りつくがジュズダマはつかない。

ハトムギは「本草和名」(918)に“都之太末(ツノタマ)”と出
ている。

今年千里川のジュズダマに白い実が目立って見られ
る。果実をよく見ると、陶器のような光沢がなく、中に
種子が見られない。これはウンカ(アカハネナガウンカ)の発生
による虫害のため、結実せずに枯死したものである。



行き過ぎて
数珠玉に日の強かりき
岸田稚魚

数珠玉は
その量ほどの露を吊る
田中灯京

数珠玉に
風からからと渡りけり
左兵子

数珠玉や
野川ここより北へ急く
石田波郷

数珠玉の
穂を玉となす風昨日今日
草村素子

数珠玉と
なりしばかりはあをあをと
佐藤ゆき子

千里川を考える会の31年の思いから 森と海の自然科の活動を考える

- 千里川を考える会の31年は、地域の川をきれいにしたいとの思いから始まり専門家の知見を取り込みながら、会員自ら知識を取り入れ、川を学び、経験を積み重ね河川環境保全のために豊中市に働きかけ成果を出されました。
- 私たち森と海の自然科もこうした活動の内容と成果は活動の規範になるものと拝見しました。
- 日々の活動が単なる物見遊山に終わることなく、自然観察や見学や体験から知る事、学ぶ事、感じる事、考える事、行う事を蓄積して財産にしたいと思いました。

千里川を知ってもらいたいと思い入れの
強い発表となりました。

これでおわります

最後までお聞き頂きありがとうございます
이었습니다。